

角高だより

HP <https://kakuko.myswan.ed.jp/> Email kakuko@od.myswan.ed.jp



宮城県角田高等学校
〒981-1505
宮城県角田市角田字牛館1
☎ 0224-63-3001
FAX 0224-63-0523

陸上競技部 東北新人大会出場権獲得 男子ハンマー投げ 加藤拓海(丸森中出身)

6月の県総体後にいくつかの部活動で地区大会や県大会が実施されました。多くは世代交代を行って新チームになって初めての大会でしたが、中には先を見据えて競技を行っている3年生もいます。その中で、インターハイにも参加した2年の加藤拓海さんが県新人大会の男子ハンマー投げで1位になり東北大会出場権を獲得しました。新型コロナウイルス感染症の影響で東北大会は残念ながら中止となってしまいましたが、インターハイ出場で一回り大きくなった姿を見せることができたのではないかと思います。裏面に彼の手記を載せましたのでご一読ください。

県大会の主な成績

陸上競技部

県新人大会(9月)
ハンマー投げ〈1位〉加藤拓海(2年)
東北大会出場権獲得

やり投げ 〈5位〉長崎澄嶺(2年)

宮城県選手権大会(7月)

ハンマー投げ〈2位〉加藤拓海(2年)
〈3位〉菅野陸(3年)
300mH 〈2位〉芳賀美咲(3年)
400mH 〈5位〉芳賀美咲(3年)

男子バドミントン部

宮城県ジュニアバドミントン選手権大会(7月)

《ダブルス》
第3位 廣岡朋・玉手翔
6回戦進出(ベスト16)
廣岡悠・廣岡宙

5回戦進出(ベスト32)

三浦佑大・三枝麟太郎

《シングルス》

第5位 廣岡悠

7回戦進出(ベスト16) 廣岡宙

6回戦進出(ベスト32) 廣岡朋

地区大会の主な成績

卓球部

全日本卓球選手権ジュニアの部宮城県仙南地区予選会

ベスト8 星花梨(県大会出場)

ベスト16 川端萌菜(県大会出場)

菅野結萌(県大会出場)

女子ソフトテニス部

夏季仙南ソフトテニス選手権大会

【ベスト4】廣岡美空・小形亜美夏ペア

【ベスト8】小野天音・田村優海ペア

美術部

仙南高校美術展

優秀賞：片上華(3年)・玉田颯季(3年)

・高橋妃那(3年)・菊地真由(2年)

・佐藤有優(2年)

奨励賞：市場美薫(2年)・宗片紅璃(1年)

野球部

第74回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会 ベスト16

1回戦 角田8-1石巻西 (7回コールド)

2回戦 角田1-8仙台育英 (7回コールド)

角田高校第2校章のデザイン候補について

「角高だより」第4号でデザインを募集しました角田高校第2校章ですが、多くの応募作品から以下の12作品に絞らせていただきました。これから在校生の投票と審査会で審査して決定したいと思います。



インターハイで得たもの

陸上競技ハンマー投げ 宮城県代表 2年 加藤拓海

私は7月28日福井県で開催された全国高等学校総合体育大会に出場しました。大会2日前に福井に入り、前日に投擲練習を行いました。私は福井に入る前にネットで全国の選手たちの名前や距離を調べ尽くしました。それは私がこれまでの記録で50mの壁を越えていないし、強い人たちの投げ方や振る舞いを勉強してくるのも出場する意味だと思ったからです。実際に前日の練習でそれらの人たちの姿を目の当たりにして、自分はまだまだだと痛感しました。そこで落ち込んでいるとき、東北大会で競ったメンバーの方々から励まされ、自分は1人で戦っているわけではないと安心しました。西日本の選手たちは底抜けに明るく、こういった緊張する場面でも談笑している余裕が見られました。地域や気候による人間性の違いを感じました。他の選手や顧問の先生から見られていることを意識してしまった私は練習から硬く、なかなか思うように距離を伸ばすことができませんでした。

大会当日はコロナ禍ということもあり無観客で行われ、同行してくださった先輩も競技場の中に入れず、私は不安と恐怖を感じながら行進しました。周りから聞こえてくるのは私とはレベルの違う会話ばかりで、私はなんでこんな場所に来てしまったのだろうと怯えていました。そんな時に柴田高校の友達と会話をしたことで心強さを感じ、仲間のいる幸せをかみしめました。私がグローブを手にはめていざ投げる準備を始めた時、会場全体からどよめきが起こりました。私の前の選手が大会記録に迫る記録を出したようでした。その瞬間、私は自分が絶対王者でもないし守るものもないのだから挑戦者の気持ちでいこうと気持ちが吹っ切れて心が軽くなりました。それで逆に闘志に火がつけました。私の名前がコールされ私はサークルに向かいました。無観客ということもあり、見える景色は私だけのものでした。1投目は48mで自己ベストに迫るものでした。この大会で50mを超えたいと思って2・3投目を投げましたがファールで終わりました。しかし、全国の舞台で記録を残せたことは自信になりました。

インターハイでは多くのことを学ぶことができましたが、課題も多く、家に帰っても悔しさと眠れませんでした。私も今度出場したらあの舞台で輝いてみたいと思い、その日から一切妥協はしないで練習しようと思えました。そのため私はまず目標を立ててそれに向かう過程を考え、毎日少しずついいから何かを得ていこうと思えました。私は生来不器用なので人一倍時間はかかると思いますが、世界一流の選手の技術を参考にしたり、コーチの鈴木先生に教わったトレーニングや一流選手が行っているトレーニングを毎日行っていこうと決めました。これからの練習では一投を大切に、投げるたびに自分の課題を見つけて修正していく努力をしていこうと思えます。難しいことですが、自分を客観的に見て、無駄なプライドを捨てて少しでも技術を手に入れられるようにがんばります。

国際理解講演会

8月25日(水)に国際理解講演会を実施しました。今年度の講師は特定非営利活動法人アmani・ヤ・アフリカの石原輝氏で「アフリカで起こっていること」という演題で講演していただきました。NPO法人アmani・ヤ・アフリカは1999年に仙台に設立されたアフリカ支援団体で教育支援・経済的自立支援・文化交流の三本柱を基本に日本とアフリカの懸け橋として活動しています。「Amani ya Africa」とはスワヒリ語で「アフリカの平和」という意味だそうです。講演では、ケニアの現状とアmani・ヤ・アフリカの活動を紹介していただき、アフリカの貧困は同時代に生きている私たちと無関係な話ではないということを説得的に話していただきました。現在、角田高校でも総合的な探究の時間でSDGs(持続可能な開発目標)について学んでいるところでもあり、地球の裏側の出来事であっても私たちに関係あるという意識は共通する部分があると感じました。



アmani・ヤ・アフリカの石原輝氏

